

## 払う税金、使う税金

碧南市立東中学校  
1年 石川 理香子

昨年の四月、愛知県初の知的障害と肢体不自由のクラスがある「にしお特別支援学校」が開校し、新聞やテレビで紹介されていた。ダウン症の弟はこの学校に入学し、毎日楽しく通っている。体の筋力が弱いので病院でリハビリや、定期的に検査も必要だ。そして学校では車いすを使って移動をしている。病院の回数は多いし、車いすだし、家はお金持ちなのか、とかん違いをしてしまった。

これらは全て税金だ。人間らしい生活を与えてくれることに両親は「申し訳ないな」「本当にありがたい」と、謝罪と感謝をしていたけれど私の両親は納税をしているし、弟が医りょうや福祉を受ける制度、学校を造るのは当然と話した。ところが母は「それは違う、思いやがってはいけない」と言った。

税金は社会の安全と、経済の安定のために好き勝手に使えるものではない。通学する時の道路、警察や消防、病院、公共施設。身近なところで私たちは税金により、守られた環境の中で生活をしている。中でも学校は必要なことを学び、友達と競い、はげまし合う大切な場所だ。教育費の心配もなく税金の恩恵を受けている。学校教育は将来、納税者になる私たちの投資と思った。未来を担う私たちのために使われている。その時に気がついた。おそらく、私の弟は納税者になれない。税金を使う側だ。だから母は感謝をしつつ、弟が社会こうけんが出来ないことに、罪悪感を持っていたのではないかと。同時に「当然」と思っていた自分が恥ずかしくなった。

生活のために私たちは誰かを支え、支えられている。その一つが税金で、身近には消費税がある。昨日買ったノートは百六十八円、十八円の消費税があった。以前の私なら「十八円くらい払わなくてもいいじゃん」と思っていたけれど、誰かの役に立つと思うと、重みが違った。十八円でも大勢の人が払えば、一人では作れない、ばく大なお金になる。

そうやって集まった税金は社会の土台となり様々な制度のサービスや、社会保障などに使われる。

納税は平等なシステムだ。みんなで負担して、みんなでより良い社会を作る。それは単純であり、理解してもらえるのに難しい部分もある。「納税をしているから、税金を使うのは当然」と感じる人もいると思う。けれど税金は、好きなだけ使えるのではない。必要な時、必要な人に、必要な分だけ使うものだ。自分の都合で使うような、思いやりのない人になりたくない。

弟を通して思い至ったのは、税金のおかげで幸せな生活を過ごせることを、感謝する気持ちだ。弟を笑顔にさせてくれて、ありがとう。平和な日常をありがとう。私は、弟や私が受けた恩恵を忘れない。将来は必ず社会に協力し、誰かの力になれる納税者になる。と決めた。